

神奈川県作業療法士会ニュース 147号 目次

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 巻頭言 | 10 学会実行委員からのお知らせ |
| 2 ここへ行ってきた | 11 各部からのお知らせ |
| 4 広報部対外広報班活動報告 | 12 理事会報告（11月18日分） |
| 6 OTのためのIT講座 | 13 求人広告・講習会案内 |
| 8 地域リハビリテーション部より | 14 ひよこ通信 |

巻頭言

第13回神奈川県作業療法学会の開催に向けて

第13回 神奈川県作業療法学会事務局長
坂本豊美（北里大学医療衛生学部作業療法学専攻）

神奈川県作業療法士会会員の皆様、第13回神奈川県作業療法学会の開催についてご理解、ご協力を賜り、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、本学会は来る4月17日に北里大学医療衛生学部で行われます。昨年（平成21年。この原稿は平成22年の師走に書いています）の秋ごろより準備を細々と進めてきて、今年に入って多くの方々のご協力とご指導、準備委員の努力で何とか目鼻が見えるようになってきました。初期の段階から、今までの学会になかった何か新しいことを、来場者や参加者に来てよかった、何かしら得るものがあつたと感じて帰ってもらえる学会を目指してまいりました。そのために記念品を用意したらどうだろう、カフェラウンジでミニコンサートはどうだろう、発表演題のコンテストは、などなど奇抜な着想を含めて役員担当部局がそれぞれ中心となって喧々諤々の議論の中、プログラム等を形作ってまいりました。

その過程で考えたことを一言で言うと「ホスピタリティ」ということかと思えます。現在、医療、福祉の分野では患者様や利用者様が主体として病院を、施設を選び、サービスをアレンジする時代になり、真剣に「ホスピタリティ」が求められるようになってもう久しいのは皆様方も実感をもって感じられていることと思えます。日本語にすると快適さや癒しの要素、誠意と専心といったところが近いかと

思いますが、なかなか日本語には置き換えられない言葉です。そこで近似的に「おもてなし」という言葉が思い浮かびました。わたくしは作業療法士の養成にかかわっておりますが、学校でさえ「もてなす」ことが問われているとヒシヒシと感じられます。「もてなす」文化を当たり前のように受けついでいるはずなのですが、実にその精神を具現化することの難しさは教育に、臨床に痛みを伴って迫ってまいります。

芸事では茶の湯がまさにもてなす技の極みかと思えます。茶会となれば主人は早朝に一番水を汲み、道具を選び、清め、茶室に備え、風炉に炭を熾し、意趣を凝らして季節に合わせた花や掛物を平素からそこにあるがごとくに置く。点前の段ではこれまた稽古の末の淀むことも走ることもない自然な所作で茶を点て振る舞う。押しつけることもこれ見よがしにひけらかすこともなく。客は主人の心づくしを感じ取り、読み取りながらこれまた大仰に応えることなく自然に振る舞い、茶を楽しむ。もてなす側にも、もてなされる側にも誠意が求められる精神。現在ではある意味フィクションに近い様にも思えますが、確かにこの国の美意識の一つだと思えます。

人が人をもてなすとき、やはり手の役割は大きいものと思えます。茶の湯においても手の動きに心を込め、読み取り、手をういて応える。そこに私たち作業療法士が手の専門家として認知されていることに自負を感じます。翻って、今学会のポスターをご覧ください。中央に幼子の手形を配しています。特に意味を定めてのことではないのですが、そこに私は拙いなりにも心を込めたおもてなしをなすことを表していると考えています。それが、OTの心に通じるところからです。「リハビリでMOTTOつながる心と手〜人と生活をよくする作業療法〜」のテーマにふさわしい学会を目指しております。手落ち無く皆様をお迎えできるように努力してまいります。何卒、皆様方にもお声合わせの上、万障お繰り合わせ頂き、春の芽吹きはじめた相模原北里のキャンパスに御足をお運びいただけますようお願い申し上げます。



左は浅井学会長 右は筆者

ここへ 行ってきた



国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部

埼玉県所沢市並木4-1

(西武新宿線「航空公園」駅または「新所沢」駅より徒歩15分)

電話：04-2995-3100 (代表)

URL：<http://www.rehab.go.jp/index.html>

今回のここへ行ってきたは神奈川県外での取材となりました。認知症の方に対して自立行動を促す「情報支援パートナーロボット」を開発しているとの話を聞いて埼玉県の所沢にある国立障害者リハビリテーションセンター研究所に行ってきました。

国立障害者リハビリテーションセンターは昭和54年に障害のある方々に医療、福祉の両面から総合的なリハビリテーションを行い、その成果を全国に発信、普及することにより障害者の自立と社会参加に寄与することを目的に設立されました。その中で研究所はリハビリテーション支援技術、福祉機器の研究開発、社会システムに関する研究や発達障害に関する情報提供など多岐に渡った役割を担っています。元々飛行場があった場所とのことで広大な敷地には研究所の他に病院や就労支援を行う自立支援局、リハビリ分野の学校があると共に、障害者のための自動車訓練所や陸上競技場など様々な設備が整えられています。

私が取材に行った当日は駅から研究所へ行くまでに視覚障害の方が歩行訓練をしている姿をたびたび見掛けました。初めて行くとしても駅から視覚障害者用の点字誘導ブロックが敷かれており、それをたどることで迷わずに着くことができました。

情報支援パートナーロボット～認知症の方と会話～

ロボットがどのように認知症の方と会話をするのか？そんな興味もありつつ、国立障害者リハビリテ

ーションセンター研究所の福祉機器開発部へと向かいました。この研究は国立障害者リハビリテーションセンター研究所と共に東京大学と産業技術総合研究所が共同開発したものです。昨年9月の国際福祉機器展にも展示されていました。実際にロボットを見てみると非常に可愛く、愛嬌があります。NEC製のPaPeRo（パペロ：写真1）という高さ40センチ程のロボットが話します。「○○さん、ちょっといいですか」と呼びかけられて「何ですか」と私が応対すると「今日はデイサービスに行くんですね」「出掛ける前にトイレにいったらどうですか」と活動の促しを行ってくれます。今回の取材では情報支援パートナーロボットについて国立障害者リハビリテーションセンター研究所、福祉機器開発部部長の井上剛伸先生が詳しく説明して下さいました。

注意力や理解力が低下した認知症の方に対して音声認識機能と音声発話機能を持ったロボットを利用しているのですが、人間同士の対話構造を基にしているのが特徴とのことです。（表1）

- (1)注意喚起…認知症の方へ名前を呼ぶことでロボットに注意を向ける。
- (2)先行連鎖…これから情報を伝えるとういことを予測してもらう。
- (3)情報伝達…本題、実際の情報を伝える。
- (4)対話終了…確認、促しの声掛け
直接的な主題となる「情報伝達」をすぐに行うのではなく「注意喚起」「先行連鎖」を踏まえて会話

■ 表1 対話例

認知症の方の生活障害	発話の種類	発話内容
外出することは覚えているが、いつ外出するのかわかえず、外出を想起させるきっかけが必要である	注意喚起 先行連鎖 情報伝達 対話終了	○○さん、ちょっといいですか ○○さん、今日もデイサービスに行くんだよね そろそろデイサービスのお迎えが来る頃だと思うから、 出掛ける前にトイレに行っておいたらどうかな？ よろしくね
スタッフなどが訪問した際、インターホンが鳴っても気付かないことが多い	注意喚起 先行連鎖 情報伝達 対話終了	○○さん 誰か来たみたいだから 玄関に行ってみたらどうかな よろしくね



写真1
NEC製PaPeRo
(パペロ)

■ 表2 効果検証結果

	実験日	支援情報	対象者の発話	対象者の行動
対話1	実験1日目	トイレへの促し	わかった、トイレに行ってくるね	トイレに行くために立ち上がるが、システムに気をとられて戻ってしまう
対話2	実験2日目	トイレへの促し	トイレ行ってきたくど	トイレにはいかない
対話3	実験3日目	トイレへの促し	わかった、行ってみるね	トイレに行く (支援達成)
対話4	実験1日目	玄関への促し	ああほんと、どうもありがとう	玄関に向かう (支援達成)
対話5	実験2日目	玄関への促し	じゃ行ってみますね。ありがとね…ほんとかな？	玄関には向かわず、様子を窺っている
対話6	実験3日目	玄関への促し	じゃあ行ってきてみますよ、ほんとかな？	玄関に向かう (支援達成)

をしています。私達の臨床でも認知症の方との会話で同じように話し掛けていることはありませんか？このようなやり取りをロボットが行っていることに私自身、とても興味深く感じました。

97歳の女性、アルツハイマー病の方とのやりとり

効果検証のため、実生活場面において軽度認知症の方(97歳女性、アルツハイマー病)を対象に活動の促しを行っています。その結果、認知症の方が行うべき行動を判断し、自立・自律行動を行えることがわかりました。その内容は表1の対話例を使い、外出前にトイレを済ませる、ヘルパーを玄関で出迎える行動の2パターンを行っています。(表2)

取材日に私は軽度認知症の方とロボットのやりとりを映像で見させて頂きました。思いのほか自然な会話で、ロボットを子供のように話しかけている女性の姿がとても印象的でした。

以上のことから対話を用いた情報支援システム(ロボット)が幅広く認知症の方への自立支援に役立つことが期待され、今後は複数の認知症の方への実験を行い、症状の変化や多様性に対応するためのシステム開発を行う予定とのことです。期待がさらに膨らみます。そして介護サービスと連携機能を強化することで、より安心して低コストな認知症の方への24時間の自立支援体制の構築、さらには認知症の方が、パートナーロボットのサポートを受けながら住み慣れた地域でより長い自立生活を継続できるような社会実現を目指すとのことで、夢はさらに広がっていく印象を受けました。

そのような将来性を考えた中で、OTに対して求めていることについて聞いてみました。井上先生は「どのような人にどのような機器が必要なのか専門家であるOTに評価して欲しい」として「OTは福祉機器に携わるべくもっと外に出てくれることを願っています」とおっしゃっていました。話す口調か

らもOTに対して期待を込めている気持ちが強く伝わってきました。ちなみに福祉機器開発部の中でもOTが研究員として携わっています。

認知症を対象にした福祉機器展示館があります

最後に今回取材した福祉機器開発部ではロボット以外の研究をされていると共に様々な福祉機器にも目を向けています。とりわけ海外では認知症のある方の福祉機器が注目され、普及し始めているそうです。しかし日本では市販されている機器は少ない現状があります。国立障害者リハビリテーションセンター研究所に併設された福祉機器展示館(現在はセンター内の別場所で展示中)では国内外から収集した認知症のある方の福祉機器(約80点)を展示しています。もちろん見て触って、体感することもできます。その中でも印象に残ったのが服薬時間を音と光で伝え、飲む分量だけ薬を出せる「アラーム付き薬いれ」(写真2)です。服薬管理が困難な患者さんのことを思い出しつつ、福祉機器を使用することもひとつの選択肢と思いました。その他にも立ち上がると同時にブレーキが自動で掛かる車椅子やスケジュール把握支援機器など様々な福祉機器が紹介されています。見学を希望する方は予約制ですので事前の連絡をお願いします。



写真2
アラーム付き薬いれ

今回の取材を通して福祉機器の将来性についていろいろ考えました。技術の進歩と共にロボットが現場で活躍する日も近いのかと思うと不思議な感じもしますが、作業療法士が福祉機器に関わる担い手としてきちんと評価、活用できることが大切であると思いました。さらに、そのためには日々進化する福祉機器の動向をしっかりと掴んでいくことが必要であると感じました。最後に今回の取材に快く応じて下さいました井上先生をはじめ、福祉機器開発部の皆様、本当にありがとうございました。(文責:千葉)



広報部 対外広報班 活動報告

対外広報では、今年度より新しい企画を実施・参加しています！今回は3つの企画についての報告を致します。

1. 一般県民への啓発活動

平成22年11月6日・7日 日本作業療法士協会の主催「横浜本牧SATY」にて一般県民向けの作業療法啓発イベントを行いました。パネル展示やパンフレットの配布の他、患者様の作成された作品展示や、ゲーム（縄跳びやコップタワーのタイムトライアル）、持ち帰りの出来る紙袋や小箱作りなどを行いました。

週末でもあり親子連れや友達同士で来場する方が多く、このようなイベントを通して地域住民の方にOTを知っていただく機会にもなりました。また「作業療法士になるにはどうしたらいい？」との質問も頂き、未来のOTの発掘にも一役かった企画にもなりました。

日本OT協会では、神奈川県その他、青森県・福島県・千葉県・大阪府など全国のSATYで啓発活動を開始しています！

この企画を通じて各県士会の活発な活動につなげていきましょう！



横浜本牧SATYでの一般県民向け作業療法啓発イベント

2. 高校生への啓発活動

今年度、広報部対外広報班は学生への啓発活動を目標に掲げています。その一環として、今年度作成した高校生向けのOTパンフレットを持参し、職業紹介のために学校を訪問してきました。

平成22年11月8日、神奈川県立高浜高校を訪ねました。同校は県内で初めての本格的な福祉教養コースを始めた高校であり、実践教育が行われています。毎年、OT養成校へ進学する生徒も必ず1～2名はいるとのことで、我々の訪問を快く迎えてくださいました。

パンフレット50部をお渡しし、さらに今後OTに関するイベント等の情報提供を行っていくこととなりました。迎えてくださった教頭先生からは養成校の説明会や学校見学などの情報がほしいという要望をお聞きし、これらも活動方針に加えしました。活発



神奈川県立高浜高校を訪れる対外広報班部員

な話し合いをすることができ、相互に意味のある訪問になったと感じております。

今後対外広報班では、同校に加え、様々な高校や予備校などにも出向き、啓発活動を行っていきたいと思います。

3. 中学生への啓発活動

平成22年11月8日、横浜市南区にある横浜市立芹が谷中学校から招かれ、中学生に作業療法を知ってもらうための啓発活動を行ってきました。

お招きされたのは、中学1・2年生を対象とした「プロに学ぼう！」という授業で、さまざまな職種のプロフェッショナルの方から実際にお話を聞こうという企画です。今回は、寿司職人・作業療法士・吉本興業の若手芸人さんの3職種が同校に招かれ、生徒を前にそれぞれの職業について思い思いの解説をしました。

作業療法士代表として、広報部理事の野本義則さんがOTについて熱く語りました。さすがOT！野本理事は、「作業療法士になるには、『人が好きで、熱いハートにクールな心』とキャッチフレーズも入れながら、作業療法という職業について、笑顔でわ



横浜市立芹が谷中学校の授業
「プロに学ぼう！」

かりやすく説明していました。時には問いかけながら話す場面もあり、中学生の興味を見事に引き付けていました。野本さんの報告を以下に記載します。

職業講演を終えて

広報部担当理事 野本

今回、横浜市立芹が谷中学校の職業講演会にて講演してまいりました。当日は279名の生徒さんに加えて父母の方、地域の方なども参加されており、会場の体育館は熱気にあふれていました。

この話の依頼をいただいた時には「作業療法士さんに仕事の素晴らしさについてお話したい」とのことだったので、「医師や看護師らと一緒に講演を行うのかな？」なんて思っていたのですが、実際にはベテランの寿司職人さん、若手お笑いコンビさんとの共演と知り、とても驚きました。

講演の依頼内容も、作業療法の紹介に加えて「働くとはどんなことか」「その苦勞や喜び」といったことも含まれており、作業療法を知ってもらう、興味を持ってもらうというだけでなく、将来の職業選択の参考になるような話をしなければと、少々緊張しながら資料を作りました。

一方で自分を基準に考えると、中学生のころは講演会なんてそんなに真面目に聞かなかったよな～？中学生たちの興味を引くにはどのように話したらいいかな？などとアレコレ考え、少し前までブームだったドクターヘリのドラマを引

き合いに、「命はなによりも大切、でも救命されれば人はそれでいいのだろうか？」という切り口から話を始めていきました。

作業療法についてどこまで理解していただけたかは定かではありませんが、300名ほどの人々に作業療法 作業療法士という存在を知ってもらえたのは確かではないかと思えますし、作業療法の仕事に興味を持ってくれた生徒さんも少なくないと感じております。

今後もこのような機会を積極的に求めて作業療法の啓発に努めていきます。

最後に、中学生からのお礼の手紙に書かれていた内容をいくつか紹介したいと思います。

☑️「作業療法士という職業を私は知らなかったの、とても新鮮でした。リハビリの話も、心のケアや仕事へ戻ることも含まれていると知ることができてよかったです。人を好きだという人は、とても良い人なんだなと思いました。私も人を笑顔にする仕事をしたいです。」

☑️「作業療法士の方とは普段会う機会が全然なくて、とても嬉しかったです。今日の講演で、もっと作業療法士になりたい！と思えました。これからも

作業療法士目指して勉強していきます」

☑️「心のケアの大変さや、良い所など、今日初めてわかったことが沢山ありました。人に対する接し方の大切さも分かりました」

☑️「今回の話を聞いて作業療法士の仕事をもっと知りたくなりました」

今回改めて、学生への広報がとても影響力があることだということを実感しました。

これからも、未来の作業療法士への啓発活動を続けていければと思います。



OTのためのIT講座

第5回 文字入力を早くすると仕事が早くなる！



講師
石川 敢也さん



石川 やつとですよ、松本さん！



松本 えっ？やつと、どうしたんですか？



石川 連載4回目で、やつと褒められたんです。「右側のページ、いいね～」って言われました。



松本 前回の「便利なキーボード操作 基礎編」のページですね。あれ、私も切り取って机の前に貼ってますよ。ありがとうございました。



石川 それですね、もう「便利なキーボード操作 基礎編」は指が覚えたんじゃないかと思ひまして、今回は「基礎編」からステップアップした続編にしてみようと思うんですけど。



松本 続きがあるんですね！ぜひ知りたいです！



石川 松本さんはパソコンやインターネットを使っていて、なにか不便なことやストレスになるようなことはありますか？



松本 う～ん、私の場合はたくさんあり過ぎるんですが、文字ばかりの長い文章を作るとき……例えば会議の議事録作成とか、どうしても面倒に感じてしまいますね。



石川 なるほど、分かりました。では今回は前回の続きとして、Wordやメールなどで文字を打つ場面をイメージした「便利なキーボード操作 文字入力編」をお届けしましょう。

質問を募集しています！ ????????????????????

「OTのためのIT講座」で取り上げてほしい質問を募集しています。

下記のURLから投稿してください。

● 「OTのためのIT講座」質問箱 <http://post.afinax.com/>

記事の感想や要望などお気軽にお送り下されれば幸いです。





便利なキーボード操作 Wordで文字入力編

できること	キーボードの操作	説明
直前の作業を繰り返す	[F 4]	キーボード上部にあるファンクションキーを使ってみましょう！
全角ひらがなに変換する	[F 6]	文字をひらがなに変換します。
全角カタカナに変換する	[F 7]	これだけ覚えておくだけでも入力が早くなりますよ！
半角文字に変換する	[F 8]	全角「あ」を半角「ア」にします。
全角英数に変換する	[F 9]	半角「A」を全角「A」にします。
半角英数に変換する	[F 10]	大文字にするには [Shift] キーを押しながら入力します。
文書全体を選択	[Ctrl] + [A]	複製、切り取り、貼り付けなどの操作と併せて使うと便利です。
文書の最初にジャンプ	[Ctrl] + [Home]	文末にジャンプは [Ctrl] + [End] です。
中央揃え	[Ctrl] + [E]	素早くセンタリングできます。
右揃え	[Ctrl] + [R]	左揃えは [Ctrl] + [L] です。
太字	選択して [Ctrl] + [B]	斜体は [Ctrl] + [I] です。
アンダーライン	選択して [Ctrl] + [U]	素早く下線を引きます。
改ページ	[Ctrl] + [Enter]	たくさん改行を入れて次ページに送るのは卒業です。
印刷する	[Ctrl] + P]	「ファイル→印刷...」クリック2回分が一瞬でできます。
文書を閉じる	[Ctrl] + [F 4]	職場でこれを使うと見ていた周り人は驚くかも？

地域リハビリテーション部

地域リハ推進班

シリーズ「認知症の作業療法」 ベテランOTへの インタビュー

地域リハ部ではH21年度より、県内の障害者・当事者団体との交流・連携を推進するため、活動取材を行い、その様子を県士会ニュースで紹介してきました。取材の際に、認知症者のご家族から、「認知症の人に対して作業療法士がどのように関わっているのかわからない」「地域に作業療法士がいるのか？」といった声が多く聞かれました。それらの当事者の声からは、認知症の方の地域生活支援に関わる作業療法士の少なさや、活動自体がよく知られていないことが伺われました。そこで今回、地域リハ部の試みとして、認知症の方に関わるベテラン作業療法士から、認知症の作業療法における基本的な考え方や、実践の工夫等を教えていただくインタビューを企画しました。現在そして今後、地域で認知症の方に関わる作業療法士にとって実践のヒントとなることを期待しています。本号と次号に亘って、佐藤先生のインタビューをお届けします。

佐藤良枝先生 プロフィール

県内の養成校卒業後、静岡県で小児分野の作業療法に従事する。その後神奈川県に戻り、介護老人保健施設（以下、老健）および曾我病院勤務を経て、老健の作業療法士としてリハビリテーション全般に従事。本年4月から再び曾我病院認知症治療病棟に勤務している。臨床25年目。



認知症のある方への作業療法 〈前編〉成功と失敗

財団法人積善会 曾我病院 認知症治療病棟
佐藤 良枝 先生

—はじめに、現在のお勤め先について教えてください。

曾我病院は、急性期病棟1、療養病棟4、認知症治療病棟2、大規模デイケア・ショートケアを有する精神・神経科の病院です。私が勤務する認知症治療病棟は、定員53名で男女比はほぼ1対1、50～90歳代の方が入院しています。OTは病棟に1名で、入院時にスクリーニングをして、必要なりハビリテーションを検討、大集団と小集団、個別を併用して実施しています。車いす使用の方も多いのですが、老健では当然OTの業務であった車いすや姿勢の管理など身体面へのアプローチが、認知症病棟のOTでは未だ十分フォローできておらず、その点は今後の課題です。

—認知症のある方との関わりで、成功したことや効果を感じた経験をお聞かせください。

成功や効果というよりも、私はモノゴトは相互関係の中で起こると思っています。以前、いつも顔を強張らせた認知症の患者様がいました。その方はうまく言葉が出ず、いつも職員の手を掴んで引っ張り、ドアを開けて欲しいことを行動で示しました。職員は皆「あの方は拘りが強くて。何を言っても、どうしてもダメ」と対応に困っていました。ある時、私の手を引っ張るその方に「私、今は行けないのです。ごめんなさい」と言うと、その方の手が「緩む」という経験をしました。時間をかけて関わっていくうちに、その方は「今は行けません」と言うと、いつもずっと手を緩めてくれるようになりました。声をかけると、言葉にはならないものの、次第に、表情に変化が出て目元や口元が笑うようになり、それを見た周りの職員の対応・ケアは、以前とは違うものへと変わっていきました。その方は、声を立てて笑うこともできるようになりました。つまり、こちらが変わると相手も変わる、ということだと思います。

もうひとつは、食事の介助に関することです。重度認知症のある方では口腔・嚥下の訓練実施は難しい場合が多いのですが、そのような方でも、食事介助だけで変わっていくことを何度も経験しました。ある方は、赤ちゃんの吸啜様に口をチュウチュウと吸るだけだったのが、今では、スプーンを目の前に少し待つことが出来るようになり、さらに舌の動きも出てきました。専門的な訓練を実施したのではなく、OTが食事介助を毎日継続することだけで、対象者が変化したのです。これが何を意味するかとい

うと、その方に合った適切な介助（ケア）を行ったから、本人の持っていた本来の能力が引き出されたのだと思います。しかしこれは逆に考えると、こちらの不適切な介助に相手が適応した結果として、不適切なパターンを学習することがあるとも言えます。これはとても怖いことです。日頃の自分のあり方を見直すことがまず大切だと思っています。

一認知症のある方を支えるチームの一員として、OTができることは何でしょうか。

私はまず、OTと対象者の1対1関係の中で、対象者の良い変化を導きだすように心がけています。OTは、他職種に比べ、対象者の能力を最も見出し易く、対象者の能力を信じていることができる職種だと思っています。

一対象者の「能力」を生活に活かすために、他職種との連携方法に何か工夫はしていますか？

対象者の変化を定着させ、再現性のあるケアを確立してから、看護・介護によるケアに引き継ぐようにしています。これは、対象者にも「失敗体験をさせない」、そして他職種の方々にも「失敗体験をさせない」といった考えからです。

「OTが言うからやってみたけれど、やっぱり上手くできない！」などと、チームワークの悪さからケアの失敗を招くと、対象者が本当はできることも「できない」という烙印を押されてしまうことに繋がりがかねないからです。

私は今の職場では、基本的な知識の共有として、看護・介護職員対象に、少人数での勉強会を実施しています。またケア場面では、ケアの違いによって対象者が「こんなにも変わる」ということを他職種の方に体験してもらうようにしています。しかし、他職種との連携については、職場によってさまざまな状況があると思います。より高度なレベルで他職種との関わりができる職場もあれば、そうでない職場もあると思います。たとえ、どのような状況でも、おかれている状況の中で「双方がつぶれない」「関係性を保つ」ことを前提に、Bestを望むのではなくBetterを積み重ねていく、状況を改善していくために今の自分ができることを考え、積み重ねていくという姿勢が重要だと考えます。

一認知症のある方と数多く関わってきた佐藤先生ですが、失敗したという経験はありますか？

失敗はたくさんあります。その中でも10年以上前の「脳みそ預かり事件」は、今でも対象者の顔が思い浮かぶ程、忘れられません。ある女性が、「次のトイレに行く時間は何時だい？」と私に尋ねてきました。私は「〇時ですよ」と答え、「時間になったら声をかけますね」と付け加えました。すると、その方は「わははは」と笑って、「そうか、脳みそ預けちまえばいいんだ」と言われました。その一言は私の胸に刺さりました。よくよく考えると、その

方は尿意があって、それを言葉で伝えることもできて、確認のために夕方職員が自分に声をかけてくる、ということも理解していました。私の発した「時間になったら声をかけますね」という言葉は、その方ができることまで私が奪ってしまうことを暗に伝えています。私は何も考えずに、そのような言葉を口にしていました。対象者の脳みそを奪い、私の脳みそが、その方の身体を動かしてはいけません。対象者の自律と援助のあり方について深く反省しました。これは、今でも忘れられない大きな失敗です。

もう一つの失敗も、10年以上前のことです。ある女性に、雑巾縫いをしてもらいました。縫い目も細かくきれいに揃っていて、スムーズに手先を動かしていたので「上手ですね」と声を掛けました。しかしその方は険しい表情で「こんなに下手になってしまった」と何度も繰り返しました。そばにいた看護師が褒めてもその方の表情は険しいままでした。その方は昔、近所の人々の羽織まで縫った実力のある方でした。傍から見れば、その方の雑巾縫いはとても上手に見えていたけれども、本人はきっとその時「昔の感覚とは違う」ことをはっきりと体感されたのだと思います。その方自身がどう感じているかということは、見た目や結果だけではわからない。特に、はっきりと形に残ったり、明確なフィードバックのあるアクティビティは、慎重に取り扱わなくてはいけないのだと実感しました。

一佐藤先生のように、自身の言葉かけや行動のあり方を見返すことのできる、OT自身の感性も大切ですね。

私は、学生時代の経験が役立っていると思います。授業で手の装具を作成した際、先生に「型紙をきちんと作りなさい」と言われました。他の授業では、「作業を対象者にやってもらう前に自分で一度やってみなさい」とも。共通しているのは、事前準備をきちんとしなさいという教えです。また、「君たちの様な若造が人様の手助けをしようなんて無理だ」と言われたこともあります。ショックな言葉でしたが、否定もしきれない自分がいました。「だからこそ努力しなさい」と言われたことが、今も心に響いています。

一初心を忘れないことは、とても大切ですね。是非、仕事に悩みを持つ若手OTの方々にも伝えたいですね。

若いOTの方は、「良いことをしよう」と考え過ぎではないでしょうか。その前にまず、「悪いことをしない」ことが何より大切だと思います。良いことをしようとして、やってみるのはいいのですが、それが却って対象者を悪くしていることはないでしょうか。「悪いことをしない」ように意識し実行することは「良いことをしよう」とする以上に困難な面もありますが、だからこそわかることもたくさんあると思います。（次号に続く）（文責：河村）

第13回神奈川県作業療法学会実行委員会からのお知らせ

“もっと” つながる、“もっと” ひろがる

第13回神奈川県作業療法学会 広報委員

川口 敬之 (横浜舞岡病院 地域生活支援部)



突然ですが、私は帰り道が好きです。

—平成22年12月某日。広報部会が終わり、帰り道を宮木広報部長と歩きながら、「今年ももう終わりますね」などと話し、今年の学会広報活動を一緒に回想。普段は交流が少ない他領域の方と肩を並べて歩きながら、言葉を交わし、想いを一つにする—

そんなひと時を今回の学会の活動を通じて、幾度となく感じる事が出来ました。神奈川県（その他の地域も）で活躍している作業療法士の“もっと”多くの方とも、その一瞬一瞬を同じ気持ちで通じ合いたい。今、ここに自分たちがいる感覚を共にしたいと強く思いながら学会準備を進めております。

さて、今回の学会は、プログラム企画運営委員の方々の熱い想いが注がれ、学会自体が「立体的な」特徴を持つようとしていると感じています。それは、プログラム内容がバラエティに富んでいること（横軸）、参加対象が幅広く懐が深いこと（縦軸）、そして、ただ見聞を広めることに留めず“体験”を重視し、プログラムそのものが参加者の手によって有機的に発展する可能性を帯びていること（奥行き）に挙げられます。作業療法士の方々には多く参加して頂けるプログラム内容であるとともに、他職種や地域住民の方々、学生の方も最後まで過ごして頂くことができ、また作業療法を感じて頂けるような内容になっております。心と手は一方向的につながるのではなく、多方向からつながり、ひろがっていく、そんなイメージです。

ここからは、広報活動の一環になりますが、前

回ニュースに引き続き、学会プログラムの中身を少しご紹介致します。

まず、特別講演では、「認知症の基礎から最近の話題まで」というテーマで高橋 恵先生が、そして、シンポジウムでは、今回のサブテーマでもある「人と生活をよくする作業療法」について、それぞれの分野でご活躍されている3名のシンポジストが登場します。ご期待下さい！

また、一般演題、ワークショップ、ランチタイムセミナー、障害者支援事業所展示、機器展示もあり、充実した内容になっています。そして、WFOTチリ大会のブースを設置し、次回横浜大会に向けて世界大会のイメージを膨らませてもらえるような企画もあります。

学会の情報につきましては、学会ホームページ、県士会ホームページに掲載する他、学会のブログを設置します。学会当日まで集中的に更新し、Hotな内容をお届けしたいと考えておりますので、どうぞご覧下さい。

学会の準備活動は年を過ぎ、いよいよ大詰めです。各委員同士も心と手をしっかりとつなぎ、使い古された言葉かもしれませんが、「一期一会」の精神で当日参加される皆様を迎え入れたいと考えています。

きっと平成23年4月17日は出会った方と言葉を交わし、胸を熱くしながら帰り道を歩くことでしょう。そんな帰り道が私は好きです。

(学会 ブログURL : <http://kana-ot.com/cgi-bin/blog12/index.cgi>)

各部からの報告

教育部

○連載!

県士会ウェブサイトから質問ができます!

「お届け!生涯教育制度、あれもこれも」

新年となりました。皆様のますますのご活躍をお祈りしますとともに、生涯教育制度のご活用をお願い申し上げます。

教育部では、年明けに生涯教育制度関連の研修会が目白押しです。ご案内はすでにお届けしているところですが、改めてお知らせいたします。まだお申し込みされていない方はご確認の上お申し込み、またご相談ください。詳細は前号の県士会ニュース別便チラシ、県士会ウェブサイトをご参照ください。少しでも多くの方にご参加いただきたいと思います。

1. 現職者選択研修

☆「老年期障害領域の作業療法」

日程：2011年1月23日(日)

会場：ウイリング横浜

*申し込み受け付け中

☆「身体障害領域の作業療法」

日程：2011年2月26日(土)

会場：ウイリング横浜

*申し込み受け付け中

2. 現職者共通研修

テーマ：「事例検討」、「事例報告」

日程：2011年3月6日(日)

会場：ウイリング横浜

*申し込み受け付け中

3. お願い

ちょうどこの年明け、年度末の1～3月は生涯教育手帳にはさみ込んでいた研究会等参加証明書を捺印に換えるのに最適な時期です。紛失する前にお手続きください。方法は受講記録と証明書、返信用封筒(切手貼付)を県士会事務局教育部宛てお送りください。詳細は県士会ウェブサイトにあります。不明時お問い合わせください。

あと、シールを手帳に挟んだままの人は、貼って日付と内容をご記入ください。これを正しく記載していないと無効となることもあります。

<問合せ先>：教育部 奥原孝幸

昭和大学保健医療学部作業療法学科

045-985-6500(代)、kyoiku@kana-ot.com

ウェブサイト管理委員会

○Did you submit abstracts to the APOTC2011?

ハマ子：ねえ、ニュースって、ずっと私達!?

よこ太：原稿作るの楽なんだってさ。

ハマ子：ウェブ管の人って、手抜くの上手いよね。

よこ太：今回、何紹介しようか?ハマ子、選んで良いよ。

ハマ子：あ〜と、あっあれ、APOTC2011の!

よこ太：あんたパーパーなOTと言われて、ちっくしょ〜!そんな2011年。

ハマ子：どんな2011年よ。はい、紙面の無駄使いはこのくらいにしとけ。

よこ太：で、何?

ハマ子：APOTC2011に演題を登録するための解説ページよ。

よこ太：えっ!? そんなページあるの?

ハマ子：私達の「2014にはペラペラ」よ!

よこ太：あぁあの下の方にあるまじめなページかあ...

ハマ子：2014年に向けたステップにもなるからAPOTC2011(タイ)にも挑戦しないとね!

よこ太：「2014にはペラペラさ」は、県士会サイトの上部中央の「エッセイ・シリーズ」にリンクがあります!

(文責：ウェブサイト管理委員会 作田・大澤)

県士会サイトURL：<http://kana-ot.com/>

平成22年11月アクセスランキング

- 1位 再学習・筋触診 7197件
- 2位 求人情報掲載板 4449件
- 3位 講習会・研修会 4381件
- 4位 作業療法Tips 2720件
- 5位 オリジナル自助具の紹介 2050件

平成22年11月県士会ブログランキング

- 1位 ウェブ管的知恵袋 225件
- 2位 大学院生兼主婦兼OTRの日記 185件
- 3位 艶姿☆男前☆手芸部! 166件

更新件数：35件 訪問者延べ数：10206人

Kanaからの手紙発行回数：5回

11月末のトップページカウンタ数：553988

理事会 報告

平成22年度 第4回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成22年11月18日（木曜日）19:00～20:40 場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：渡邊、佐藤、錠内、浅井、奥原、木村、作田、鈴木、机、富山、野々垣、野本、原、澤口

委任理事：中西、山路

出席監事：清宮、長谷川 出席事務局員（書記）：竹田、金山 その他：松本（広報部）

●事務局（澤口事務局長）

- 1) 渉外活動（主に9月～11月）
 - ・神奈川県病院医療関係団体連絡協議会
日時：9/28 15時～18時 場所：県民ホール6階「英一番館」
議題：各関係団体の抱えている諸課題の説明と情報交換
出席：佐藤副会長
 - ・特定非営利活動法人神奈川県介護支援専門員協会設立10周年記念祝賀会 日時：11/6 10時～
会場：ロイヤルホールヨコハマウィンドー 出席：錠内副会長
 - ・神奈川県医療専門職連合会
【公開セミナー】「うつ病について」日時：10/29 18:30～
場所：中外製薬横浜支店 横浜イーストスクエア3F会議室
講師：財団法人横浜労働者福祉協会 汐田総合病院 総合ケアセンター室長 PSW 松尾ゆかり先生 参加者：26名
- 2) 各部団体からの後援依頼⇒すべて承認
 - ・「第7回かながわ地域リハビリテーションフォーラム」共催依頼
日時：2011/2/20 10:00～15:30
場所：神奈川県総合医療会館7階講堂 主催：神奈川県総合リハビリテーション事業団
プログラム内容：特別講演「障害者自立支援法と人材育成・連携」（仮題）シンポジウム「神奈川県におけるリハビリテーションの推進」（仮題）
対象：県内の医療従事者（医師、PT、OT、ST、ケアマネ、県・市町村職員ほか
定員：200名 参加費：無料
 - ・「みんなにやさしい横浜の住生活モデル事業」連携協力依頼
主催：NPO法人横浜市まちづくりセンター横浜リハビリテーション事業団
内容：ケア連携型バリアフリー改修体制整備部門（国土交通省高齢者等住居安定化推進事業選定）
協力依頼：情報提供・普及啓発事業
 - ・「県精連体験発表会ハートメッセージ開催」周知依頼
日時：11/26 13時～16時 場所：ヨコスカ・ベイサイド・ポケット
主催：NPO法人神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会
共催：神奈川県障害者参加推進センター
協力：県精連横須賀・三浦ブロック会員の皆さん
内容：当事者による体験発表 福祉サービス事業所等の文化活動発表 定員：300名 参加費：無料
- 3) 各市町村より会員推薦依頼
 - ・横浜市（障害程度区分認定審査委員、介護認定審査会委員）
→机 里恵：横浜リハビリテーション専門学校、田中敦史：済生会神奈川県病院を推薦した
 - ・藤沢市（障害者介護給付等支給審査会委員）⇒堺 孝太郎：藤沢病院デイケアセンターを推薦した
 - ・厚木市（介護認定審査会委員）⇒依頼中
 - ・川崎市（介護認定審査会委員）⇒名古屋和茂：横浜YMC学院専門学校を推薦した
- 4) WFOT関連：第1回team Japan国内組織委員会11/20、OT協会事務局10階。澤口事務局長が出席予定。
- 5) 庶務関連
 - ・県内OT施設見学希望→現役高校生に対し理事を幹旋した。
 - ・予備校講師よりOT紹介ツールの問い合わせあり→DVDの貸与と高校生向けOT紹介パンフを配布（広報部と協力）。
 - ・選挙管理委員会について
年内稼働に向け人選など準備中。
- 6) 検討事項
 - ・賛助会員規定（案）：「県士会会員外のOT：海外や他県を想定」「団体」「OT以外の個人」の3区分⇒了承
 - ・講師謝金（案）：財務より財政的にも可能と判断⇒了承
 - ・総会参加者増の対策について

神奈川県内のOT養成校に入会案内の配布を行い周知する。

●財務部（野々垣理事）

- ・会費納入率（10月31日現在）：会員：1621名
納入件数：1264件 納入率：78.41%（昨年比5% up）

●学術部（代読：渡邊会長）

- ・学術誌編集について：論文執筆制度に1件、応募あり→指導員を紹介。投稿論文1件。
- ・第29回神奈川県病院学会「今後の病院：医療の方向性part V～質の高い医療実践をめざして～」
日時：11/11 13:00～18:00 場所：神奈川県総合医療会館
主催：神奈川県病院協会 プログラム内容：特別講演、シンポジウム、一般演題 当会の当日の役割：座長1名（中西理事）、運営委員2名（矢島美希氏・忠鉢綾氏；ともに新戸塚病院）
- ・講習会（生涯教育・分野別）で1講座は中止。他は予定通り。

●教育部（奥原理事）

- ・現職者共通・選択研修ともに予定通り進捗している。
- ・認定作業療法士の更新について：特例で認定作業療法士になられた方は今年度で終了。更新の周知が必要。

●広報部（野本理事）

- ・学生啓発活動実施（対外広報班担当）
- ①福祉系高校へパンフレットの送付、および進路指導担当教員への啓発：高浜高校の進路指導担当教員との面談（11/8）
- ②横浜市芹が谷中学校1、2年生（約280名）職業教育の一環に作業療法士の紹介講演を実施。11/8(月)13時～15時
- ③医歯薬大、専門学校受験予備校教員との連携
事務局にあった問い合わせに対応するとともに、担当教員との関係を築く。
- ・OT協会への協力報告
- ①OTフォーラム
日時：2010/9/27 会場：はまぎんホール
- ②作業療法の日キャンペーン
日時：2010/11/6～7 10:00～15:00 場所：本牧サティ
広報部員6名が当日運営協力

●福利部（富山理事）

- 1) 第3回職場見学会予定
日時：2011/1/14 19:00～20:00 場所：ステップなな
講師：野々垣先生 定員：15名 ※終了後懇親会開催予定
- 2) 求人情報について
求人情報の投稿においてある施設の電話番号に誤記があり先方へ厳重注意した。なるべく電話番号等は確認したい。
- 3) 新入会員オリエンテーションについて⇒時期を再検討する

●地域リハビリテーション部（木村理事）

- 1) パイロット事業（今期）について
 - ①学術誌への掲載（11月末締切り）事業の経過を紹介する。
 - ②講習会終了後6ヶ月後に参加者（当事者・医療従事者）へアンケート調査。③OT協会への事業報告 ④県士会ニュースへの経過報告 ⑤学会発表
- 2) パイロット事業（来期）について
 - ・11/15に企画書の提出締切り。三役会へ審議を依頼。今期と同テーマで実施予定。次回詳細報告。
- 3) 第1回訪問リハビリテーション実務者研修会
日時：2011/1/15(土)16(日)2日間
会場：横浜リハビリテーション専門学校
※PT士会、STと共同開催 申し込み期間12/1～12/10
- 4) 第18回PTOT地域ケアネットワーク合同研究会
日時：2011/2/11（金・祝）13:00～16:30
会場：横浜市総合リハビリテーションセンター
※紙面の都合で以下、並びに一部割愛しています…詳細は県士会Webをご覧ください（文責：澤口）



求人

作業療法士 募集

募集人員： 若干名
 就労期間： 即日～平成23年 3月31日
 ※4月以降については応相談
 応募資格： 作業療法士免許を有する方
 ＊有経験者を希望＊
 待遇： 非常勤職員としての雇用です
 給与： 本市規定による 1864円/時給
 手当： 交通費相当分支給
 勤務時間： 8時30分～17時15分
 ※頻度・時間等は相談に応じます
 休日： 4週8休制（土曜・日曜勤務有り）
 応募方法： 電話連絡の上、面接をいたします。
 履歴書・免許証の写しをご持参ください。
 ※まずはお気軽にお問い合わせ下さい

問い合わせ先

横浜市立脳血管医療センター

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-1

TEL 045-753-2768 (直通) FAX 045-753-2905

リハビリテーション部 遠藤まで

Eメール：by-ysbckanrika@city.yokohama.jp

<http://www.city.yokohama.jp/me/byouin/nou/>

研修会

千葉県作業療法士会 学術部 身体障害委員会 平成22年度研修会のご案内

1. テーマ：「がんの痛みと作業療法」～これからがんのリハビリを学ぶために～
2. 日程：平成23年2月6日(日)
3. 会場：千葉市民会館 3F 特別会議室2 <http://www.fc.jp/shimin/map.html>
住所：千葉市中央区要町1-1(会場への直接問い合わせはご遠慮ください)
4. 講師：坂下 美彦 (千葉県がんセンター 緩和医療科医師)
笠谷 美保 (千葉県がんセンター がん看護専門看護師)
田尻 寿子 (静岡がんセンター 作業療法士)
5. 対象・定員：がんのリハビリに興味のある作業療法士(初心者歓迎) 50名
6. 参加費：4,000円(今年度OT協会および千葉県士会会費納入した方)
6,000円(他県士会・非会員)
7. ポイント認定：2ポイント(他士会の方には修了証発行)
8. 研修内容およびスケジュール
研修内容：がん患者が抱えるさまざまな“痛み”の理解と、これからがんのリハビリに携わろうとする作業療法士間交流
スケジュール(予定)
9:10～ 受付開始
9:45～11:00 わかりやすいがん特有の“痛み”のメカニズム
11:15～12:30 さまざまな痛みを抱える患者と家族の支え方(看護の立場から)
12:30～13:30 休憩
13:30～16:00 作業療法士としてがん患者とどう向き合いか&受講者間交流
9. 申し込み方法
・申し込みは必ずE-mailで、件名を「身体障害委員会宛」と表示してください。
・①氏名 ②OT会員番号 ③経過年数 ④所属施設(他県の場合は都道府県も記載) ⑤電話番号⑥現在の臨床でのお困りごとや講師への事前質問(任意)を明記し、下記アドレスまでお送りください。
・申し込みは、施設ごとではなく、個々にお願います。
・申し込み締めきり 平成22年12月18日(土)必着
・申込者多数の場合、締め切り前に受付終了や調整する場合があります。
・携帯・YAHOOのフリーメールをお使いの方は、ドメイン解除しておいて下さい。
10. 申込先・問い合わせ(メールのみ受付)
E-mail: 千葉県がんセンター 西久保真弓 E-mail: mnshikubo@chiba-cc.jp
11. 注意事項
・OT協会会員証(今年度県士会会費納入シール添付)を必ずお持ちください。
・会場内飲食可能です。周辺にコンビニや飲食店がないため各自昼食のご準備を。
・駐車場は有料のため、公共交通機関の利用をお勧めします。(千葉駅より徒歩7分)
・参加キャンセルの場合は、研修会3日前までに、メールにてご連絡ください。
無断欠席の場合、今後の県士会主催研修会で参加制限が発生することがあります。



求人

作業療法士 募集

募集 常勤1名(病院勤務経験者歓迎)
 業務内容 入院・外来業務
 給与・待遇 当法人規定による 経験者優遇
 賞与年3回(前年度実績)
 勤務時間 9:00～17:15
 休日 4週7休・祝日・夏季・有給・年末年始
 慶弔休暇等
 福利厚生 職員食の事業所負担等有 制服貸与
 各種社会保険完備 厚生年金基金加入
 健康診断有 職員旅行有 慶弔見舞金有
 研修制度
 ・学会や研修会に積極的に参加しており、参加後は、科内にて報告会を実施。
 ・定期的にリハビリテーションスタッフが集まり、勉強会を開催。
 応募方法 下記担当までご連絡下さい。
 見学も随時受け付けております。
 交通 東急東横線 日吉駅よりバス20分
 地下鉄グリーンライン 東山田駅より徒歩20分 車通勤可

医療法人社団 山本記念会 山本記念病院

〒224-0024 横浜市都筑区東山田町1552

電話番号 045-593-2211 担当 リハビリテーション科 二宮

<http://yamamoto-kinen.or.jp/>

研修会

第9回国際国流セミナー

- 【テーマ】これから国際協力を目指す人、再び目指す人へ
- 【日時】2011年1月22日(土)13時～23日(日)12時
- 【会場】国際協力機構JICA東京国際センター
 (地図：http://www.jica.go.jp/tokyo/office/pdf/map_tokyo.pdf)
- 【プログラム】講義、ワークショップ、実践報告 など
 講師：吉田美穂(元JICA専門家)、溝田康司(熊本保健科学大学)、小林義文(福井県立病院)
- 【参加費】2日参加4000円(非協会員6000円)、1日のみ参加2000円(非協会員3000円)、交流会3000円(2日プログラム終了後に会場内にて開催)
- 【参加申し込み締め切り】2011年1月11日(火曜日)
- 【募集人数】100名
- 【申し込み方法】氏名 所属名 勤務先または自宅住所 OT、学生、その他 OT協会番号交流会への参加の有無 海外での活動経験の有無 を記載しメールにてお申し込み。
- 【申し込み先】国際部 石井清志(kishii.otr@gmail.com)
- 【その他】生涯教育制度の対象です。参加費は当日徴収させていただきます。学生さんの参加費は半額となります。



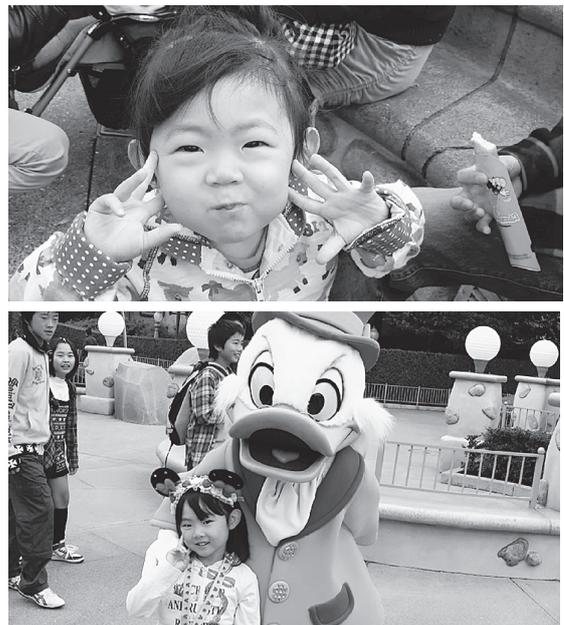
ご褒美

以前から「ディズニーランドに行ってみたいな～」と言う長女。”じゃあ、手術を頑張ったら行こう”と約束をしていたので、退院後はしつこいくらい(笑)?に行ける日を聞かれる日々でした。1ヶ月前から行く日取りを決め、その日が近づくにつれて天候をチェック☆しかし台風の影響で”今回は無理かな”と半ば諦めていると予報も変わりその日だけ曇りマーク(^o^)/。正直私としては”次女はベビーカーでお昼寝ができるけど、意外とお昼寝をしっかりとる長女も同じ時間に眠くなったらどうしよう…。次女はとにかくはしゃいでしまうタイプだし、ひたすら追い駆ける事態になるのでは…”と、ちょっとした不安も抱えながら当日を迎え出発!!パレードでは子供達も大声で「ミニー!!」と大興奮♪、何故かそれ以上に私も興奮し、普段は主人の役目である子供の抱っこを今日ばかりは「たくさん歩くと疲れるから抱っこしようか」となるべく長い時間遊べるように言ってみたり(笑)。お店をゆっくり見たり本当に楽しい一日でした。

帰ってからも子供ではなく私の興奮はなかなか冷

めず、次はいつ行けるかな?と考えることが楽しかったり。家でもパレードのビデオを観ては振り付けを子供と覚え、とても良い思い出になりました。そんな話をリハビリの最中にしていると、90歳近い女性の方が「私も2回行ったのよ、町内会の人とも行ったし孫ともね～。ちゃんとパレードは観てきたの?」と話は盛り上がり、その方はとても懐かしそうに「物は高いけどつつい記念に、なんていろいろ買っちゃうのよね。そんな時はお金のことにしちゃ駄目よ(笑)」と当時の様子を嬉しそうに話してくれました。今回は長女のご褒美で行ったディズニーランドでしたが、また家族で行く楽しみができたか仕事のモチベーションも上がった!?と、やっぱり楽しみって大事ですね☆。普段家族で買い物に出かけてもなかなかゆっくり自分の為の買い物ができませんが、意外と一人で出かけても、自分へ宛てる時間よりつつい子供が喜んでくれる物を探し始めてしまい”自分の事はまた今度でもいいかな?”と、思ったり(笑)。子供の存在って不思議なものです。そして”私ってこんな性格だったんだ”と新しい喜怒哀楽に気づくことも多かったりと、自分発見に驚いている今日この頃です(^ ^)。

(文責：海出)



一般社団法人 **神奈川県作業療法士会ニュース** <147号> 2011年1月発行(年6回発行)

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 野本義則

編集担当 松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・馬場順子・杉本美穂・矢野竜也・堤由貴子

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号 TEL/FAX:045-663-5997
月火水木金 10:00~16:00 メールアドレス:jimu@kana-ot.com

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.com/>

作業療法 神奈川

検索